

ウトナイ湖北岸における オオアワダチソウの駆除

市民参加による駆除作戦と定期的な機械駆除で ウトナイ湖の在来植生と生態系を保全

北海道苫小牧市東部に位置するウトナイ湖では、北岸の草原や樹林地において外来生物のオオアワダチソウが進入し、これらが旺盛に繁茂することで、ホザキシモツケ等の在来植物が被圧されていました。

ウトナイ湖保全対策実行委員会では、アサヒスーパードライ寄付記念助成金を受け、ウトナイ湖の在来植生と生態系を保全することを目的として、2009年以降オオアワダチソウの生育分布調査、市民参加によるオオアワダチソウの駆除、防除試験と生育状況調査による効果的な抑制管理手法の検討を行っています。本取組はNPO、市民、企業等様々な主体により行われており、ドーコンは、2011年より駆除作業及び試験効果の調査・解析に参画しました。

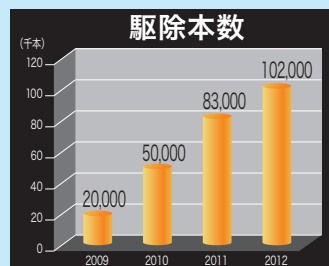


市民参加によるオオアワダチソウ駆除作業



市民参加の公募型イベントや小学生の環境学習等により、2009年以降毎年約200～300人の参加者による駆除を実施しています。

オオアワダチソウの駆除では、「根を含む引き抜き方法」を主体に行っています。作業成果は参加者が作業を熟練することにより年々増加し、4年目では開始時の5倍以上の駆除本数(約102,000本)に達しました。



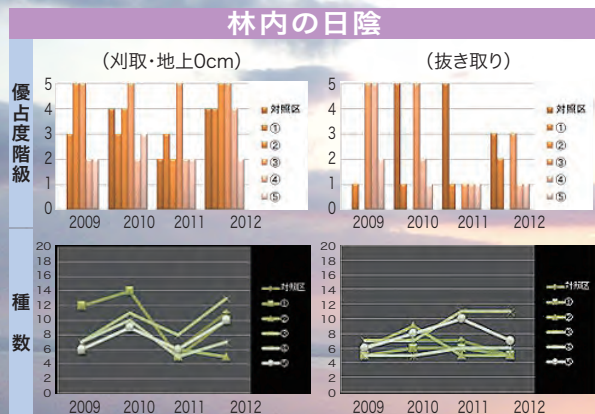
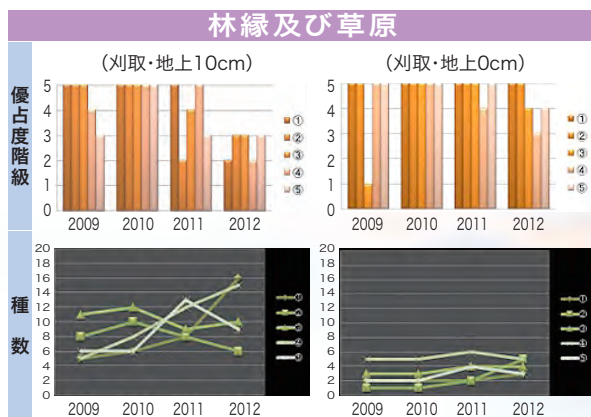
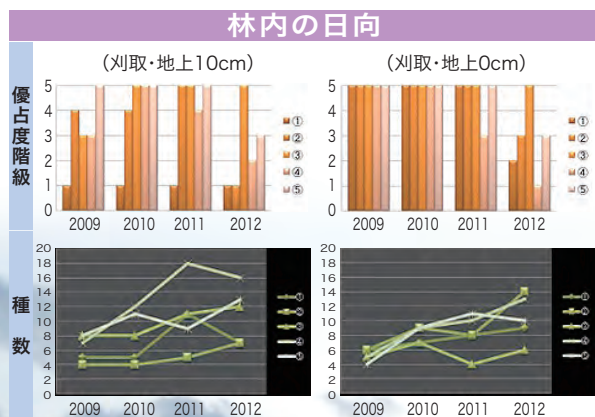
オオワダチソウ分布状況の推移

最近17年で急激に拡大



駆除方法による生育状況の違い

- 約2,000㎡の範囲での駆除試験とモニタリング
- 生育環境ごとに3種の処理方法で作業
- ①地際での刈取 ②地上10cm程度での刈取 ③根を含む引き抜き ※市民参加で実施



駆除試験の結果、「③根を含む引き抜き」が駆除の効果が最も高く、次いで「②地上10cm程度での刈取」で生育本数及び生育高の抑制と在来草本の被度向上が確認されました。

これらのことから、面積の広い範囲を早期に対策する場合は、機械力による②地上10cm程度での刈取、市民参加で行う場合は③値を含む引き抜きが効果的かつ安全な手法として提案されます。

結論

ウトナイ湖では、市民参加による駆除と機械力等による駆除を効果的に組み合わせながら、安全かつ継続的に対応していくプログラムの構築が可能です。



総合建設コンサルタント

株式会社ドーコン

本社：札幌市厚別区厚別中央1条5丁目4-1
東北支店：仙台市青葉区一番町4丁目1-25 東二番丁スクエア
URL: <http://www.docon.jp>

問い合わせ先

環境事業本部 環境保全部 (担当：佐藤・櫻井)

TEL. 011-801-1572 FAX. 011-801-1573

東北支店 (担当：高橋)

TEL. 022-225-2860 FAX. 022-264-9331

(2013.06)